

段ボール間仕切り KAMIKABE 沼田高校で設置訓練

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は18日、群馬県沼田市の県立沼田高校で避難

所用の段ボール製間仕切り「KAMIKABE（かみかべ）」の組み立て訓練を行った。県北部で活動する沼田ロータリークラブの教育プログラムの一環。地元の中高生にリーダーシップ



組み立て作業

群馬建協



講演する武田副社長

を養ってもらおう活動として組み立てを実演した。協会会員の沼田土建の武田寛副社長による地域防災やリーダーシップについての講演も行った。

冒頭、武田副社長は「利根沼田地域は山と谷の地形の寒冷地で災害のリスクが高い。道路や橋を守る重要な役割を任されている建設業は地域の裏方のリーダーでもある」と群馬建協や建設業の役割と活動を説明した。協会長を沼田出身の青柳氏（沼田土建社長）が務めており、リーダーに関する

る青柳氏の言葉として「『前向きに将来を想像すること、それを表現することが大事』と言っている」と紹介し、強力なリーダーシップの重要性と必要性を強調した。

を考えた結果の一つがKAMIKABEであることを紹介した。リーダーシップについて重要なことに「先を想像する力」と「表現、発信」を挙げた。10年先を見据えた対応や、KAMIKABEが非常用の備品であってもデザインや機能を重視し、この日のように地域の人と組み立て、情報を発信する活動を重視していると説明した。講演は「建設業に少しでも興味を持ってもらえたらうれしい」と締めくくった。

沼田土建 武田副社長の講演も

KAMIKABEは非常に時に備え、県内12カ所に分散備蓄してある。全国の被災地には約2000セット提供してきた。武田副社長はコロナ禍の中で「地域を守る建設業ができること」

訓練では、10セットのKAMIKABEを1セット4人で組み立てた。中高生の男女やロータリークラブの関係者が参加。協会のスタッフらがサポートしながら、30分ほどで完成させた。



段ボール製パーティション「かみかべ」を組み立て

群馬県北部に活動拠点を置く沼田ロータリークラブ（津久井功会長）は18日、県立沼田高等学校で、

「かみかべ」組み立て実演 地元中高生が地域防災学ぶ

地域防災に関する講演と、群馬県建設業協会（青柳剛会長）が開発した災害避難所向け段ボール製パーティション『KAMIKABE（かみかべ）』の組み立てを実演した。地元中高生を対象としたリ

沼田ロータリークラブ

ーダーシップ教育プログラムの一環として、沼田地域の中学1年生から高校3年生のほか、ロータリークラブ会員約30人が参加した。当日は、ロータリークラブ会員で、群馬県建設業青年経営者部会前副部会長の武田寛沼田土建副社



講演する武田副社長

長が「東日本大震災から10年 複合災害への備え リーダーとは」KAMIKABEの組み立てを通して地域の防災とリーダーシップを学ぶ」と題して講演した。武田副社長は、新型コロナウイルス感染症や東日本大震災などに触れた上で、「これまでの価値観

や社会構造に大きな変化をもたらす出来事に遭遇した時に、群馬建協の青柳会長が話していた『自分を取り巻く社会の変化を感じ、その先のことを想像する力』が必要になる」と話した。

『KAMIKABE』をメディアを通じて積極的に発信し、組み立て訓練活動を展開した経験を踏まえ、「表現すること、発信すること」の重要性を説いた。生徒には「授業に真面目から取り組み、その中で自分なりの表現しやすい得意な方法を見つけることが大切だ」と語った。

複合災害備え 生徒に防災訓練

沼田ロータリー

沼田 利根沼田地域の
中高生が防災を学
ぶ講座が18日、沼

田市の沼田高で開かれ
た。生徒約20人が自然災
害と感染症による複合災
害への備えなどに理解を
深めた。

県建設業協会青年部の
前副部長の武田寛さん
が講師を務め、協会が複
合災害への備えとして製
作した段ボール製のパー
ティション「KAMIK
ABEへかみかべ」の
開発経緯などを語った。

KAMIKABEにつ
いて「気落ちもする避難
所で使われるため、外観
は明るく、生活する内部
は機能性を重視した」と



紹介。県内各地で組み立
て訓練を行い、発信にも
努めてきたとした。

生徒は5班に分かれ、
協会のサポートを受け
ながら実際に組み立てを
体験した。写真。

講座は沼田ロータリー
クラブが中高生向けに企
画、実施する教育プログ
ラムの一環。(山田祐二)